

巨大プレス機で版画制作

青森

巨大版画プレス機を使

って版画を制作するワークショップが21日、青森市の青森公立大学国際芸術センター青森（ACA）で行われた。同施設のプレス機は135センチ×250センチほどの版画を刷ることが可能であり、世界最大級の大きさとい



あすから作品展示

う。参加者らは、各自の作品を組み合わせて大きな作品2枚を完成させた。作品は26日から28日まで、同市桜川のギャラリークレイドルで展示する。

ワークショップは、同施設の市民ボランティア団体AIRS（エアーズ）主催、同施設の共催で13、20、21日の3日間行った。青森市が「版画のまち」を掲げていることや、版画の楽しさを知ってほしいとの思いから企画した。

青森市在住の版画家橋本尚彦さん、竹林嘉子さん、奥山庸子さんが講師

【写真上】世界最大級のプレス機で、ワークショップ参加者らの版画を刷る様子【同下】巨大作品の制作に向けて、各自が木版画を制作した11日

を務めた。

参加者約15人が制作したのは「油性1版多色刷り木版画」。基本的な技法を学ぶところから、彫り、刷りまで一通りの作業を体験した。30センチ×45センチの板に思い思いの絵柄を彫り、それらを150センチ×230センチの大きな紙に配置して一つの作品を制作した。

巨大プレス機は、紙のセッティングから刷り終わった後の乾燥作業まで、どの作業も数人掛かり。スタッフ、参加者は声を掛け合って作品を仕上げ、完成した作品を満足そうに眺めていた。

参加した同市の高坂厚子さん（72）は「こんなに大きなプレス機が青森市にあるとは知らなかった。一から版画を学ぶことができてよかった」と笑顔を見せた。

（山谷佳澄）